

第2弾 出前委員会 「議会改革についての中間報告」

主催 議会基本条例制定をめざす議会改革特別委員会

第3回開催

- 1 日時 平成21(2009)年1月27日(火) 午後7時から9時まで
- 2 会場 関戸公民館 ヴィータホール
- 3 参加者 参加者 36名
 - (1) 一般参加者 33名
 - (2) 委員外議員 3名：石渡議員、加藤議員、佐久間議員
- 4 出席委員等 14名
藤原議長、安藤委員長、岩永副委員長、遠藤委員、平野委員、
萩原委員、小林(憲)委員、橋本委員、白田委員、折戸委員、住田委員、
向井委員、今井委員、菊池委員
- 5 出前委員会の内容
 - (1) 委員長中間報告
 - (2) 改革骨子の説明(遠藤めい子委員)
 - (3) 市民意見聴取

【会場からの主な意見】

○男性(豊ヶ丘)

条例化するものの中に「検討する」「認める」この差はどういったことか？

●安藤委員長

多摩市議会の現状で、合意できるところで記されている。骨子でくさびを打ったと考えてほしい。

○男性(豊ヶ丘)

会場からもっと意見が出やすいよう・・・具体的な質問をするが「定数」「報酬」、いちばん市民は関心がある。「改革」という言葉は重く痛みを伴うもの、議員は相当勉強しなくてはならないし、市長に一丸となって、二元代表制を形に表していくんだとなると、会派ごとの今までの結論の出し方では、どうにもならない。

古い議員さんほど痛みを伴うのではないか、そして抵抗勢力が出てくるのだろうと推察する。

より多くのことをし、通年議会にしようとか、たくさん勉強するのならば報酬は上げるべきだろう。目で見える改革とするならば、市民人口1万人あたりに1人にしたらとか、2,000票取れなくてはダメ等意見があるが、今の半数にするくらいで、ようやく市民は改革と捉えるだろう。

●安藤委員長

改革は全委員で議論しているが、議員は次の選挙で当選しにくくなるのなら反対するだろう。各議員がどう判断するかにかかっている。しかし改革の目的は市民の幸福につながるかどうかである。

●白田委員

「定数」について報酬の面だけで高いというのでしょうか。仕事次第と考える。定数削減により既存からの議員が少なく、市民意見全体的に市政に反映されない。財政枠を変えずに議員を増やすこともありうる。

○男性（永山）

前回の多摩センターでのアンケートに具体的にと書いたが、50数回の会議の内容、意見集約について具体的に見えてこない。いつ見えてくるのか？議会改革について各議員温度差がある。最後に「議会とは何か」一人ずつ聞きたい。

●住田委員

デモクラシーの基本である。地方議会は新しい憲法のもと、地方自治に定めて住民の福祉の向上のためと考える。

○男性（永山）

メールマガジンはいつごろ実施できるのか。アンケートの項目でどの番号が一番重要と思うか聞かせてほしい。

●安藤委員長

メールマガジン、これは速報性のある情報公開であるが、現状1階のテレビにつながっているが、今後については、取り組むことで、実施に向けた検討に入っている。

アンケートの項目については、最後に各委員にマイクを回したいと思う。

○男性（聖ヶ丘）

時々傍聴するが、理事者席と議員の席が向かいあっているのが不思議だ。なぜ市民に背中を向けているのか、失礼と思うがどうか。

●安藤委員長

当初は登壇して市民に向かって質問していたが、市長に質問するのに反対を向くのは変だろうということで今の形になった。

○男性（聖ヶ丘）

市民に選ばれたのだから、こちらを向いて分かりやすく説明してほしい。議場のあり方、発想の転換をしてほしい。

●安藤委員長

市民に選ばれた代表として市長に質問しているからである。

○男性（豊ヶ丘）

議会活動の改革についてであるが、先進都市の条例には議員の位置づけがある。多摩市議会には議員の位置づけが特に無いが、必要ないということか。

●安藤委員長

自治基本条例の第11条にあるが、ここにあるから議会基本条例になくていいかということは、これから検討していく。条例を分かりやすく充実していくことは重要なことだと思う。

○男性（豊ヶ丘）

会派の考え方と、市民全体への奉仕者としての考えもある。相反することも出てくるだろう。そのあたりを明確に位置づけると市民にわかりやすいと思う。

●安藤委員長

市民全体の代表ということと、会派とが相反するかどうかは、議論を要するところで、会派のことは条例にも入ってくると思われる。そして改革事項の中にも入れてある。

○男性（豊ヶ丘）

会派は関係ないというが、そう感じざるを得ない。国会と同じことが行われている。

●安藤委員長

会派をなくすべきという意見もある。多くは政党に所属しているが、一人会派に不公平にならないようにとは考えている。

○男性（関戸）

先日の「たま広報」で、70%から80%が「多摩市に住んでよかった」とある。昭和47年に多摩市に転入してきたが、人口30万になると聞いていたが、今は多摩市14～5万でしょうか。今後ビジョンがあるのか、稲城市は、日本一人口が増えている。多摩市は増えるのか、何か手立てをするのか。

●安藤委員長

発展にはどの議員も真剣に取り組んでいる。稲城市は住宅建設が現在進んでいて増えているところである。多摩市はニュータウンが成熟してきて、既存地域の方が民間のマンション等増え、全体的には微増である。質的にも市民にとって良いものにしていきたい。

○男性（和田）

議会改革のたたき台は何だ。各政党の改革案がこれ以前にあったであろう。各政党の考えは反映されないのか。ただ漠然とやっているのか。各政党の考えを發表してほしい。

●安藤委員長

各政党・各議員がそれぞれ考え方を持っているのは事実である。その上で多摩市の議会をもっともっと良くしていこうと、考え方はいろいろあるがそこで合意したと、議員の全員的一致でこの委員会を作った。その中で議論した内容がこれである。

●岩永副委員長

ここに至るまで、各会派・各議員が書面に書いて集めてある。地方政治がどうあるべきかという研修も受けて、全員が感想も書いている。政党で書いたというよりも、個人が意見をまとめた。その合意点をさぐり、その到達点がこのレジュメと考えてほしい。

○男性（和田）

昨年5月の時は、延べ300人（各100人ぐらい）。素案は用意されているのに、今回多摩センター30人台、永山30人台、関戸40人台、議員としてどう思われるか。

定数・報酬、26人の活動を見ているが、金の観点で減らすべきではない。いろんな市民派議員が活動できるようなという視点で考える。市民生活をバランスよく維持していくためにも市民派議員が活動できるようにということも含め、定数は減らすべきではない。

報酬について、市長・副市長などは10%カット、期末手当も0.1ヶ月など、痛みを分けた。市議会は市民から声があったのに自らなにもしない。行政からも追加条例のすすめがあったのに何もしなかった。今これからでも遅くない後2年の間にやって改革のモデルを作ったらどうか。

議員年金について、12年で年金の対象となる。公費を足さなければならないほどか。議員年金の補填を国はやめた、地方議会も「やめよう」と動き始めた。（神奈川でも）多摩市は改革の線上でどう考えるか。

○男性（聖ヶ丘）

何回か議会の傍聴に行った。非常に混沌としている。社会・政治・経済情勢を鑑みてある程度考えたらどうか。

●岩永副委員長

なぜ参加者が少ないのか。これは私たちの発信力が弱いのか、政治離れがすすんでいる環境の中で、皆さんのアンテナに地方議会のことが引っかかりにくくなっていると感じている。

市民派に関して認識が違う。反論めくが、政党に所属しているからといって、市民派でないといえない。議員はみんな市民派であるというところにたってほしい。市民も先入観をもってみないでほしい。

○男性（和田）

会派制度は再考すべし、政策集団としてはいいが、地方自治は是々非々で採決していくべき。政党間の合意となるものもあるであろうが、一般の議決に関して会派制度を持ち込むのはどうなのか。この会派制度が改革に枠をはめるのではないか。どうやって定数を決めるかプロセスが大切と思う。

●安藤委員長

選挙で各政党から出してくるのに会派をなくしても考えが同じなら何がかわるのか。現状では無理である。

○男性（永山）

確かに会派を無くすのは無理とは思う。今回代表質問形式で、質問する党があると思うが、市長と議会という関係なら、同じような質問をバラバラしないで行えばよい。それが議会としてできれば、会派の問題はおのずとクリアできる。そこまで至ってないだけである。

○男性（和田）

会派をなくせとはいっていない。議員さんの良識を期待していこうということ、市民派といったことは多少誤解を招いたかもしれないが、広く市民の意見をたずさえてほしいと、幅広い議員の層をつくってほしいと思ったまでである。

歳費・年金の問題を聞きたい。

反問権は「市長」に限定するのか。「行政」にしたらどうか。

「全会派一致」はよくない。多数決主義を尊重してほしい。

有識者を呼んで、参考人招致をするようだが、自治条例のときはその発言が「休憩中」で記録に残っていない。失礼な扱いである。要点筆記で市民に説明できるように。

●安藤委員長

正式な招致なので記録に残る。

全会派一致はしっかり議論するための良い制度である。本気になってやる気であれば、一会派だけでも再トライ、運用の仕方によってはいい制度である。最終的には、多数決である。

反問権、骨子には市長とあるが、市長等にしようと考えている。

報酬等審議会の結論に議会が修正を加えていることはない。報酬は議会の必要な機能を担保する。現在の社会状況はきびしい。財政的な部分を見捨てることは今後の状況を考えてもない。

特定の政党を組織票と考えることはおかしい。そういう政党に票を投じるのはおろかな市民と言われるのはおかしい。市民の意思表示は平等である。

○男性（聖ヶ丘）

今後のスケジュールを聞かせてほしい。

●安藤委員長

2月2日参考人招致、その後、条例案のたたき台、条例の素案についてご意見をいただく機会がある。

委員に一人ずつ、骨子で重要な事項、あなたにとっての議会とは、の意見を聞く。

●萩原委員

決算を予算に反映できるシステムを考えたい。

●橋本委員

大切なことは、今日のように市民と議員が正面から話し合える場をつくること。多摩は、そういうことをしても潰れないと思う。

●向井委員

ひとつに選ぶことはできない。今、常任委員会では活発な議論に心がけている。委員会に限らないが、議員同士、あるいは議員と市民、議会と行政それぞれが活発に意見を交わせるようになればと考える。

●折戸委員

改革は大変に難しいことだと思っている。議員が今までの反省を元に行うのでなければ「改革」という文字が踊るだけ、本音と建前が違うことは絶対にしてはいけない。時間がかかっても、こうして皆さんと本音で話し合い改革していき条例をまとめることが一番大切だと思う。

●今井委員

12番の新たな市民の政策提案が大事であると思う。

今日のように大勢の方に来て頂き、声を出して頂く場面もあるが、声を出せない方がいるのも現状である。そのような声をどう吸い上げるか考えながら政策提案の方法を考えていきたい。

●菊池委員

もう少し市民と議員が気楽に意見交換できる場をつくっていくことが、議員との距離を短く、信頼関係をつくることに繋がる。

政策提案をしていける委員会をつくっていきたい。多くの市民の意見が議会という形で集約できるような地方自治を目指したい。

●平野委員

討議する場づくりが一番大切であると思っている。

改革とは、変えなければならないこと、そして結果を出さなければならない。皆さん結果を楽しみにしてほしい。

●小林憲一委員

ひとつだけ挙げるとしたら、討議する場づくりである。

議員になった時に、議員同士で議論する場が議会なのになのが一番びっくりした。自分が思っていることを説得力をもって相手に伝え、議論を重ねてつくっていくこと。最終的に合意したい場合もあるが、議論を積み重ねていくということがあとから生きてくると思う。そういう議会にしたい。

●住田委員

二元代表制の実質化である。

市民と侃々諤々する場がたくさんなければ、二元代表制の実質化にはならないと思う。市民との議論を大事にしたいと思う。

●白田委員

私は2番（会派制度のあり方）である。独りで今まで来たので、余計にそれを感じる。後半2年はどうなるか分からないが、数の強さを実感している。

●遠藤委員

私は、しっかり議論できる議会をつくりたいと思っていたが、皆さんの意見を聞いて、もっと市民参加を広げていかなければと感じた。

私たちも変わりたいと頑張っているつもりであるが、なかなか市民に伝わらない。また、市民の皆さんが変わってほしいと思うところがあたりに伝わっていないというのを強く感じた。

●議長

自治法の改正、市民意識の高揚、議員の資質とやるきの問題そして事務局職員の協力がなければ議会改革は実現していかないと思う。二元代表制の実質化を進めていきたい。

●岩永副委員長

議会とは様々な価値観の集合体だと思っている。そこが市長と大きく違っているところであり、議会は皆で、議論をし合って決めていく。そこで出した答えは、市長がひとりで独善的に出した判断より思いものになると思う。

議会は、議員それぞれの価値観や考え方の集合体ですので、そのところに立脚していくのであればきちんと議論をしていく。

そこには市民参加もしていくが、市民にも様々な意見があるので、受けた意見を議会で議論し一本化していくというところに頂いた課題の答えがあるのではないかと思います。

会派であっても、一議員であっても議論を尽くすことが必要だと思います。

○男性

今回、参加人数が少なかったが、次回条例案の説明の出前委員会を開催する時には、もっと市民を集めて意見が聴けるようPRをしてほしい。

●安藤委員長

ただ今の意見、承った。

二元代表制を進めるには、我々が市民の皆さん立脚していかなければ、その価値はないと思っている。

そして、選挙の時には、市民の半数近くの方の票を頂いて当選してきたが、アンケートでは遠い存在であるということで、議会改革を決意し、ひとつひとつ進めているところである。

皆さんの中には、手緩い、不十分とのお考えの方がたくさんいるかも知れないが、アイデアを出すことと実行することの間には大きな差がある。多摩市議会も右から左まで意見が大きく違う。その中で、議会改革を一步でも二歩でも進めてようとやってきてここまで到達した。

これが形として実現していくのか、役員改選や任期満了でパッと消えてしまうかは、皆さんのご支援、ご声援に頼るしかないと思っている。

駅頭で超党派により広報活動をやっているときにも、たくさんの方の励ましを頂いた、着実に議会改革を進めていきたい。

本日のご意見も受け止めて、さらに進めていく。

以 上